第７回富山研究大会の概要

丹　羽　　昇（富山大会実行委員会委員長）

環日本海学会第７回学術研究大会は、2001年11月10・11日の両日、富山市の富山県民会館で開催された。会員以外の方々も含めて100名をこえる参加者を得て、実行委員会としては安堵したというのが正直な気持ちである。

今年の大会は21世紀最初の研究大会ということで、初日は「北東アジア地域交流の新世紀」というテーマで国際シンポジウムを行った。基調講演には、翰林大学校日本学研究所所長の池明観先生をお迎えし、パネルディスカションでは、コーディネーターに佐藤幸男先生（富山大学教授）、パネリストに木宮正史先生（東京大学助教授）、赤池学先生（ユニバーサルデザイン総合研究所所長）、今村弘子先生（富山大学助教授）、林夏生先生（富山大学講師）をお迎えした。当初パネリストをお願いしていた李鐘元先生（立教大学教授）が急務のためご参加いただけなくなり、木宮先生にパネリストをお願いすることとなった。急な依頼にもかかわらず、ご参加いただいた木宮先生には感謝申し上げる次第である。

2002年のワールドカップ共催に向けて、日韓の交流は進展が期待されまたそうならなければならなかった。だが教科書、歴史認識問題をはじめとして、交流の障害となる問題も多い。これは、北東アジア地域交流全体にもあてはまることである。しかしながら池明観先生が述べられたように、交流こそ平和に対する保障であり、相互繁栄への道である。今回、日韓を中心に北東アジア地域諸国間の相互理解と交流の進展に長年にわたって尽力されている池明観先生に基調講演をお引受けいただいたことは、非常に意義深いことであった。

基調講演に引き続いてパネルディスカションが行われた。ここでは、各パネリストの専門の立場から、冷戦後の北東アジア地域の状況と日本の対応、環境技術を中心とした北東アジア地域での経済ミッション創設、北東アジア経済交流の実態、日韓を中心とした文化交流等について報告・討論が行われた。また質議応答においてはフロアから率直な質問・問題提起が行われ、内容の深いパネルディスカションとなった。

２日目は４つの分科会に分かれて、計22の報告が行われた。今大会からの試みとして、各報告に対してコメンテーターをたてることにした。予想どおり討論は活発となり、一定の成果をあげることができた。コメンテーターをお引受けいただいた諸先生に感謝申し上げたい。特に第４分科会では、会員外の布村昇先生（富山市科学文化センター）にコメンテーターをお引受けいただいた。布村先生には心よりお礼申し上げる次第である。韓国の東北亜経済学会からは、李相萬先生（韓国　中央大学校）と金振郁先生（韓国　建国大学校；残念ながら共同報告者の朱星煥先生（韓国　建国大学校）はご都合により不参加）から報告をいただいた。２報告とも会場が満席となり、討論も予定時間を大幅にオーバーするという内容の濃いものであった。環日本海学会と韓国東北亜経済学会の交流の大きな成果と言える。他方今大会の反省点としては、環境に関する報告が少なかった点である。第４分科会の討論の場でも指摘されていたが、環境問題は重要な課題でありながら報告者が少ないということである。環日本海地域諸国の交流と共生を考える場合に、環境問題は重要なテー

マであるだけに今後の検討事項と言える。また当日はスライド映写機の不調というトラブルがあり、関係者の皆様にはご迷惑をおかけした。おわび申し上げる次第である。

最後になったが、富山大会の開催にあたっては、富山県高等教育振興財団、越嶺会にご後援をいただき、インテック、富山港湾運送、日本海ガス、北陸電力から多大なご支援をいただいた。この場をかりてあらためてお礼申し上げる次第である。

目　　次

〔投稿論文〕

岐路に立つ日本外交
—第一次世界大戦末期における「人種闘争論」と「独逸東漸論」—
サーラ・スヴェン（ドイツ・日本研究所）……1
陸上起因汚染と統合的沿岸域および河川流域管理
—北西太平洋地域協力に向けて—
古　川　　勉（岩手大学）……21
The Direction of Economic Exchange and Cooperation among Japan, South Korea and North Korea
Ju, Sung Whan (Konkuk University, South Korea)
Kim, Geneuhc (Konkuk University, South Korea) ……33
A Comparison of Open Market Accounting Regulation Differences among Foreign Investment Enterprises in South Korea, China and North Korea
Park, Chang-Rae (Kangnung National University, South Korea) ……43

〔第７回大会報告要旨〕

第７回富山研究大会の概要
丹羽　昇（富山大会実行委員会委員長）……60

第１分科会：歴史・文化・交流
１．広域国際交流圏の形成
中藤　康俊（岡山大学）……62
コメント　池井　輝夫（㈶とっとり政策総合研究センター）……63
２．東北アジアにおける冷戦後の軍縮と要塞都市、ウラジオストクにおける「朝鮮族商業ネットワーク」
—過去の経緯と現在の状況—
飯島　康夫（聖学院大学）……64
コメント　西　重信（関西大学）……65
３．ロシアの高校・大学教育における東洋史
—その問題点と課題—
クズメンコ・ナターリア（ロシアウラジオストク経済・サービス大学）……66
コメント　下里　俊行（上越教育大学）……66
４．「日本海」呼称について
芳井　研一（新潟大学）……67
コメント　櫛谷　圭司（新潟大学）……70
５．北東アジアにおけるコリアン・ネットワーク
—方法論としてのアイデンティティとネットワークについて—
笠本（宮島）　美花（早稲田大学助手）……71
コメント　加藤　健太郎（福井県立大学大学院）……74

6．「独逸東漸論」
—岐路に立つ日本外交と第一次世界大戦—
サーラ・スヴェン（ドイツ・日本研究所）……76
コメント　橋本　哲哉（金沢大学）……77

第2分科会：政治・外交
1．北東アジア（＝環日本海）地域における多国間安全保障対話構想
—韓国金泳三政権期を中心として—
竹村　卓（駿河台大学）……78
コメント　大津　浩（東海大学）……79
2．Prospects and Policy Tasks of Inter-Korean Economic Cooperation after the Summits
Lee,Sang Man（Chung-Ang University,Korea）……80
コメント　多賀　秀敏（早稲田大学）……81
3．日本・韓国・北朝鮮間の経済交流・協力の方向
朱　星煥（韓国　建国大学校）
金　振郁（韓国　建国大学校）……83
コメント　櫻井　浩（久留米大学）……83
4．ロシア極東の国際経済協力をめぐる中央政府と地方政府
—「国際化」と「分権」をめぐって—
堀内　賢志（早稲田大学助手）……84
コメント　堀江　典生（富山大学極東地域研究センター）……85
5．南北経済交流の法的諸問題
—南北間の合意書を中心に—
三村　光弘（㈶環日本海経済研究所）……87
コメント　坂田　幹男（福井県立大学）……89
6．北東アジアにおける多層的交流と予防外交
佐渡友　哲（秋田経済法科大学）……91
コメント　斉藤　志郎（元亜細亜大学教授）……93

第3分科会：経済・経営
1．東アジア国際政治史からみた北朝鮮開発の諸問題
李　泰王（愛知大学）……94
コメント　小川　雄平（西南学院大学）……96
2．中国電子産業の生産システムと日本企業の技術移転
楊　世英（北海道文教大学）……98
コメント　西川　博史（北海学園大学）……100
3．京都・滋賀地域対中進出企業の特徴について
大西　広（京都大学）
張　　翎（京都大学大学院）……101
コメント　千葉　康弘（秋田経済法科大学）……102

4．21世紀の市場経済
－東北三省を中心として－
荒木　弘文（新潟中央短期大学）……103
コメント　吉田　均（㈶環日本海経済研究所）……104
5．環日本海経済の相互依存
－国際連結計量経済モデル、I－Oモデル、CGEモデルによる一つの評価－
尹　清洙（京都大学大学院）……106
コメント　凌　星光（福井県立大学）……106
6．北東アジア開発銀行構想
－その意義と課題－
千葉　康弘（秋田経済法科大学）……107
コメント　盛山　正義（中国・吉林大学東北亜研究院）……108
7．「環日本海」をめぐる公共交通体系の利便性
―北陸地域を中心に―
岡本　勝規（富山商船高等専門学校）……110
コメント　雨宮　洋司（富山大学）……111
8．移行経済における会計の役割と国際協力
―ロシアへの会計技術支援―
齋藤　久美子（和歌山大学）……112
コメント　溝端　佐登史（京都大学経済研究所）……114

第4分科会：環境・資源
1．最近対馬暖流によって運ばれた海洋動物の特異現象
本間　義治（新潟大学）……115
コメント　布村　昇（富山市科学文化センター）……116
2．北東アジア地域における環境協力とエコ雁行型モデルの可能性
龍　世祥（金沢星稜大学）……117
コメント　桂木　健次（富山大学）……120

会員著書紹介……122

環日本海学会会則……129
『環日本海研究』編集要綱……131
『環日本海研究』執筆要綱……133
役員：理事会／事務局／編集委員会……135
編集後記……136